

の品
上部
板子
基電

過熱蒸気で分離

新熱工業 レアメタル効率回収

ヒーター製造の新熱工業(茨城県ひたちなか市、大谷洋史社長)は携帯電話などの電子基板からレアメタル(希少金属)を含む部品を効率的に回収する技術を開発した。セ

氏300度程度の過熱蒸気でハンダを溶かし、自動的に部品を基板から取り外す。手作業だった回収作業を大幅に効率化できる装置として、来春にも販売を始める。

過熱蒸気は水蒸気を熱して高温にした気体。新熱工業は独自のヒーター技術を活用し、効率的に過熱蒸気を発生させる装置を開発。今回開発した回収装置の中核技術として採用した。

自動車や携帯電話などから取り外した電子基板を特殊なトレーに入れ、装置に投入して過熱蒸気をあてる。基板と部品を固定しているハンダを溶かした後、トレーに振動を与えると高効率で部品を分離回収できるという。

として注目を集めている。しかし現状では手作業で部品を取り外すか、部品と基板を一緒に粉砕して溶融するといった手法

が中心で、効率や採算性に問題があった。新装置は部品だけを簡単に外せ

る。効率の向上で「採算」の回収も可能になる「」が合わなかったレアメタル」としている。

電子部品などが含むレアメタルは「都市鉱山」